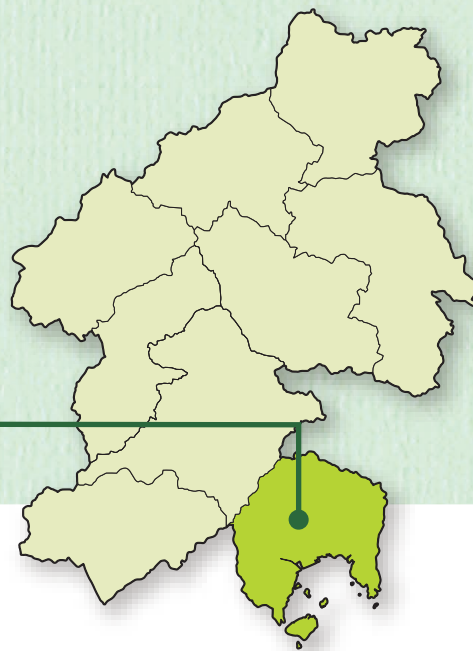


9 安芸津地域



1 地域の概要

安芸津地域は本市の南部に位置し、本市で唯一瀬戸内海に面しており、万葉のころから潮待・風待の港となった素晴らしい湾があります。また、江戸時代には広島藩の米蔵が置かれるなど、交通の要衝、物流の拠点、海運の町として栄えてきました。

東を竹原市、西を呉市に接しており、基幹となる交通ネットワークとして、JR呉線と国道185号からなる東西の軸、本市の中心部と地域拠点※¹である三津地区を結ぶ主要地方道安芸津下三永線による南北の軸が形成されているほか、大崎上島町と航路で結ばれています。三津湾を囲むように、市街地が国道185号の沿道を中心に沿岸部から内陸部にかけて広がっており、温暖な気候で風光明媚な景観など、豊かな自然環境の中で特色ある農業や水産業が営まれているほか、沿岸部には広島中央テクノポリス圏域を構成する工業系の企業が集積しています。

また、旧安芸津町においては、総合計画の基本目標に「バリアフリータウン・あきつーあかるい環境・きらめく個性・つちかう交流」を掲げ、施策を実施してきました。

2 まちづくりにおける現状と課題

昭和20(1945)年の約16,500人をピークとして、本地域の人口は減少傾向が続いています。少子高齢化の影響等もあって、合併時に約12,000人であった人口が約8,800人となっています。そのなかで、外国人市民が約300人居住しており、本地域の産業の重要な担い手となっています。瀬戸内海に面し、優れた景観、温暖な気候、農水産物等の特産品や、特色ある歴史文化、雇用を支える産業団地の企業群、イノベーション※²を育む果樹・柑橘系^{かんきつ}の試験研究機関、駅と港が近接する立地環境、広域的な医療機能を担う県立安芸津病院など、様々な強みを有しています。また、近年では、自分らしいライフスタイルの実現を目指し、自然豊かな地域に移住先を求める人の増加など、新しい変化も地域に現れつつあります。

一方、人口の減少、高齢化が続いています。特に若年女性の減少が顕著であり、経済活動や地域活動の停滞・担い手不足などが危惧されているなか、課題の解決に向けた地域住民によるまちづくりの取り組みが始まっています。

平成30年7月豪雨災害の際には、本地域は甚大な被害を受けましたが、三津大川の改良復旧など、復旧・復興を進めるなかで、住民主体のマルシェが始まるなど、地域住民間の新たな交流も生まれてきています。

※1 地域拠点：各生活圏の居住者の生活を支える、地域の核となる拠点。

※2 イノベーション：経済発展の最も主導的な要因。「新結合」「新機軸」。新たな価値を創造し社会に大きな変化をもたらす幅広い意味での革新。

3 まちづくりビジョン

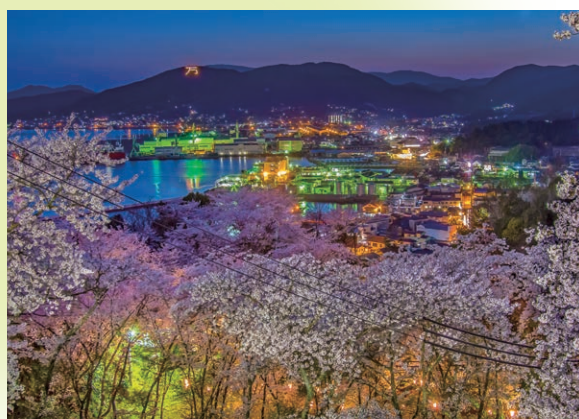
(1) 将来像

瀬戸内海に臨む温暖な気候と豊かな自然環境を活かした共に支え合う共生のまち

(2) 主要な施策の方向性

本地域においては、顕著な人口減少を抑制し、とりわけ女性や若者に魅力的である地域となっていくために、国・県の研究拠点や水産業など本地域の特徴である資源を活かした更なる取組みが必要です。また、地域特性を活かした観光資源の保全と魅力増進、多様性を尊重し合う社会環境の整備、空き家の利活用の促進をはじめとした魅力ある居住環境の整備や、子育て・教育環境の充実、県立安芸津病院との連携による健康増進、地域包括ケア推進体制の充実、安芸津港の整備による離島へのアクセス強化、地域の担い手となる若者世代にとって魅力的な雇用の創出や起業の支援などを柱として施策を組み立てていくことが必要です。

さらに、地球規模での気候変動など、災害発生リスクの更なる増大が懸念される中で、災害に強い地域づくりを推進していく必要があります。



基本計画に掲げる施策とともに本地域で推進していく主な施策

仕事づくり

項目

施策の方向性

産業イノベーション※1の創出

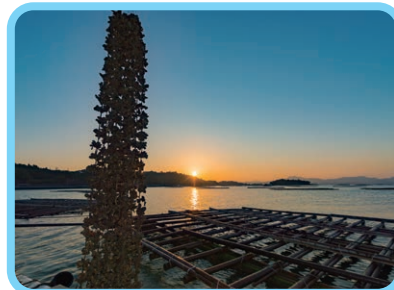
- 企業等へのAI※2/IoT※3の導入支援とともに、恵まれた自然環境を活かした新たなビジネスの創出を図ります。

農山漁村の魅力づくりと農林水産業の活性化

- 農業技術センター果樹研究部等の研究機関と連携し、果樹の新品種の導入やスマート農業※4による生産性の向上を推進するとともに、馬鈴薯や肉牛のブランド力向上を図ります。
- 若手農業者等多様な担い手の取組みに対する支援を進めるとともに、瀬戸内の温暖な気候を活かした「農」や「漁」のあるライフスタイルの実現を推進します。
- 牡蠣の生産支援や、漁場環境の整備により、水産業の振興を図ります。

地域資源を活かした観光の振興

- 民間事業者の参入も含め、農泊などの体験型観光や、火とグルメの祭典あきつフェスティバルをはじめ、正福寺山、保野山などの海が見える景観や道路・港湾等、地域資源を活用したイベントや交流事業を支援します。



牡蠣の収穫



正福寺山公園からの眺望

暮らしづくり

項目

施策の方向性

暮らしを支える拠点地区の充実

- 安芸津駅周辺において、医療、福祉、子育て、文化、交流等の生活利便施設の集積により、拠点機能の充実を図るとともに、安芸津港を海上拠点とするなどの交通機能を活かしながら、良好な住環境を形成します。
- 駅と港の近接性を活かし、拠点機能の充実を図ります。
- 空き家の有効活用、下水道等の基盤整備などにより、居住環境の向上を図ります。

安全で円滑な生活交通の充実

- 安芸津海風バスの運行など、市民生活を支える移動手段の確保・活性化を図ります。
- 身近な交通道路網となる国道等の整備を推進します。

多文化共生と国際化の推進

- 技能実習生等の外国人市民の生活環境の充実を図るとともに、多様な言語・文化等の違いを超えて活動を支援します。



安芸津駅



安芸津海風バス

※1 イノベーション:経済発展の最も主導的な要因。「新結合」「新機軸」。新たな価値を創造し社会に大きな変化をもたらす幅広い意味での革新。

※2 AI:Artificial Intelligenceの略。人工的につくられた人間のような知能、ないしはそれをつくる技術。

※3 IoT:Internet of Things の略。モノのインターネット化。様々な「モノ(物)」がインターネットに接続され、情報を交換することにより相互に制御することが可能となる仕組み。

※4 スマート農業:ロボット技術や情報通信技術(ICT)を活用して、省力化・精密化や高品質生産を実現する等を推進している新たな農業。

人づくり

項目

施策の方向性

乳幼児期における教育・保育の充実

- 乳幼児教育等の子育て支援環境の充実を図ります。

高い教育力と伝統を活かした学校教育の実践

- 教育の質を高め「生きる力」を育むため、特色ある教育活動の推進、教育環境づくりを進めます。

市全体が「学びのキャンパス」となる環境づくり

- 生涯学び、活躍できる環境として、学習活動の充実、芸術文化活動の活性化、地域単位のスポーツの普及を進めます。
- 大学や試験研究機関等との連携の充実を図ります。
- 杜氏の里や北前船の基地など郷土の歴史の保存と活用を推進します。



安芸津歴史民俗資料館

活力づくり

項目

施策の方向性

多様性豊かな市民の力が輝くまちづくり

- 自然豊かな環境を活かし、創業・起業と連動した移住・定住の促進とともに、交流人口の拡大を図ります。
- 移住・定住に係る情報発信力の強化、コーディネート機能の向上を図ります。
- 県立豊田高等学校との連携による、地域の活性化の支援を図ります。
- 小学校跡地の活用を促進します。
- 国道185号安芸津バイパスの整備等を踏まえ、新たな仕事・交流機能の検討を含め、沿道における土地利用を促進し、地域の活性化を図ります。

交通ネットワークの強化

- 国道185号安芸津バイパス等の整備促進とともに、交通ネットワークの充実を図ります。
- JR、バス、航路等の利用を促進し、サービスの維持・活性化を図ります。



地域体験ツアー
安芸津釣リスクール

安心づくり

項目

施策の方向性

災害に強い地域づくりの推進

- 三津大川などの河川改修・河川維持の促進や、ソフト対策等の防災・減災対策を推進します。
- 高潮対策の推進に取り組みます。
- 防波堤や栈橋等の港湾施設の長期保全を行い、安芸津港の適切な維持管理に努めます。

総合的な医療体制の確立

- 県立安芸津病院の医療提供体制の維持・強化のため、県に耐震化の早期実現についての要望を継続します。

健康寿命の延伸による生涯現役社会の実現

- 健康維持や介護予防のための通いの場や地域サロンの充実を図ります。

共に支え合い誰もが安心して暮らせる地域社会の実現

- 県立安芸津病院との連携による健康増進及び地域包括ケア推進体制の充実に努めます。
- 地域において、気軽な交流の場、障がいの有無や年齢等にかかわらず、全ての市民が集える場づくりを進めます。

安心して子どもを産み育てられる環境づくり

- 子育て支援拠点において、相談支援などのサービスの充実を図ります。



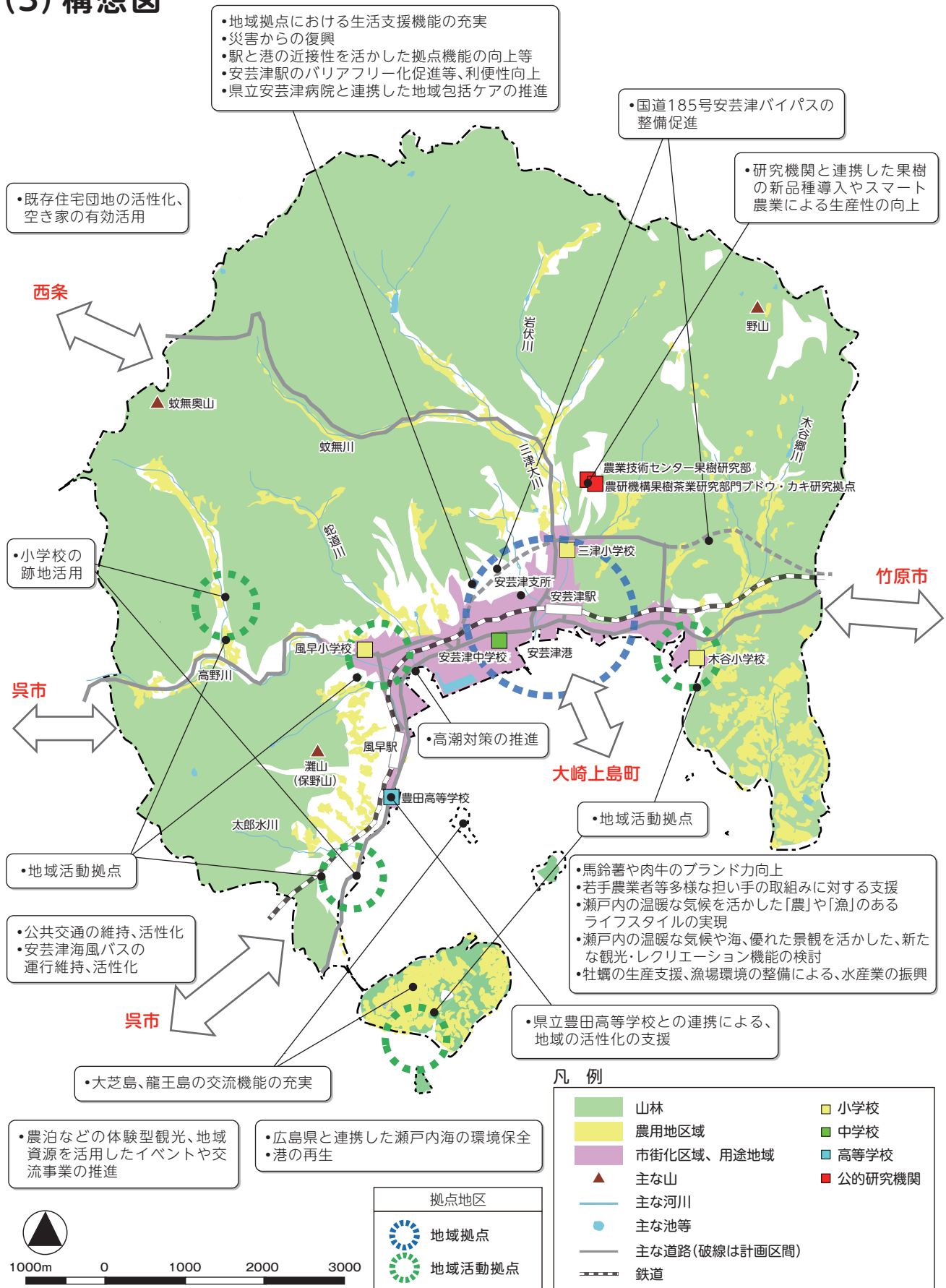
安芸津港



県立安芸津病院



(3) 構想図



※計画区間は、具体的なルート、位置等を限定するものではありません。